

(19) 日本国特許庁(JP)

(12) 登録実用新案公報(U)

(11) 実用新案登録番号

実用新案登録第3127082号
(U3127082)

(45) 発行日 平成18年11月16日(2006.11.16)

(24) 登録日 平成18年10月25日(2006.10.25)

(51) Int. Cl.

F I

B 4 2 F 1/02 (2006.01)

B 4 2 F 1/02

E

B 4 3 M 15/00 (2006.01)

B 4 2 F 1/02

N

B 4 3 M 15/00

A

評価書の請求 未請求 請求項の数 4 O L (全 9 頁)

(21) 出願番号 実願2006-7335 (U2006-7335)

(22) 出願日 平成18年9月8日(2006.9.8)

(73) 実用新案権者 300022881

株式会社ティーディーシー

東京都渋谷区富ヶ谷1-11-12 L O
ビル

(74) 代理人 100087000

弁理士 上島 淳一

(72) 考案者 金井 宏水

東京都渋谷区富ヶ谷1-11-12 L O ビ
ル

(54) 【考案の名称】 媒体ホルダー

(57) 【要約】

【課題】媒体を容易に識別可能に保持することができるようにした媒体ホルダーを提供する。

【解決手段】内部が空洞状に形成されるとともに上面に開口部が形成された本体部と、本体部に配設された媒体保持手段と、本体部の内部に配置されるとともに発光ダイオードと発光ダイオードのオン/オフを制御するスイッチとを搭載したプリント基板と、本体部の内部に配置されるとともに発光ダイオードを点灯するための電力を供給する電池と、本体部の開口部内に上下方向に摺動自在に嵌合された透明なレンズ状のカバー部材と、カバー部材を常時上方向に付勢するバネ部材とを有し、バネ部材の付勢力に抗してカバー部材が下方向に移動されると、カバー部材の下端部とスイッチとが当接し、カバー部材の下端部によりスイッチをオン/オフし、スイッチがオンされると発光ダイオードが点滅または点灯し、スイッチがオフされると発光ダイオードが消灯する。

【選択図】 図1



【実用新案登録請求の範囲】**【請求項 1】**

媒体を保持する媒体ホルダーにおいて、
内部が空洞状に形成されるとともに上面に開口部が形成された本体部と、
前記本体部に配設された媒体保持手段と、
前記本体部の前記内部に配置されるとともに発光ダイオードと前記発光ダイオードのオン/オフを制御するスイッチとを搭載したプリント基板と、
前記本体部の前記内部に配置されるとともに前記発光ダイオードを点灯するための電力を供給する電池と、
前記本体部の前記開口部内に上下方向に摺動自在に嵌合された透明なレンズ状のカバー部材と、
前記カバー部材を常時上方向に付勢するバネ部材とを有し、
前記バネ部材の付勢力に抗して前記カバー部材が下方向に移動されると、前記カバー部材の下端部と前記スイッチとが当接し、前記カバー部材の前記下端部により前記スイッチをオン/オフし、
前記スイッチがオンされると前記発光ダイオードが点滅または点灯し、前記スイッチがオフされると前記発光ダイオードが消灯することを特徴とする媒体ホルダー。

【請求項 2】

請求項 1 に記載の媒体ホルダーにおいて、
前記媒体保持手段は、ピンであることを特徴とする媒体ホルダー。

【請求項 3】

請求項 1 に記載の媒体ホルダーにおいて、
前記媒体保持手段は、マグネットであることを特徴とする媒体ホルダー。

【請求項 4】

請求項 1 に記載の媒体ホルダーにおいて、
前記媒体保持手段は、互いに対向するように付勢された鋸歯状部材であることを特徴とする媒体ホルダー。

【考案の詳細な説明】**【技術分野】****【0001】**

本考案は、媒体ホルダーに関し、さらに詳細には、メモやメッセージなどが記載された書類などを保持するのに適した媒体ホルダーに関する。

【0002】

なお、本明細書において「媒体」とは、普通紙などの紙類よりなる各種の記録媒体は勿論のこと、PVC、ポリエステルなどの樹脂材料やアルミ、鉄、木材のような材料などの各種の材料よりなるものが含まれるものとする。

【背景技術】**【0003】**

従来より、メモやメッセージなどが記載された書類などの媒体を保持するには、媒体ホルダーとして、例えば、画鋏、マグネット、クリップあるいはペーパーウェイトなどが用いられてきている。

【0004】

例えば、壁面にメモやメッセージなどが記載された書類を取り外し自在に保持させておく際には、画鋏やマグネットなどを用いることが便利であり、風などで吹き飛ばされないように壁面にメモやメッセージなどが記載された書類を机上に載置して置く場合には、クリップやペーパーウェイトなどを用いることが便利である。

【0005】

10

20

30

40

50

ところで、壁面や机上にメモやメッセージなどが記載された書類が多数存在するような場合には、これら書類を見る者にとって、いずれの書類に記載されたメモやメッセージが重要であるかを容易に判断することは困難であるという問題点があった。

【 0 0 0 6 】

このため、こうした書類を見る者は、重要度の高低とは無関係に、これらのメモやメッセージなどが記載された書類を順番に読んで行かなければならなかった。

【 0 0 0 7 】

また、上記のように壁面や机上にメモやメッセージなどが記載された書類が多数存在するような場合には、これら書類を見る者にとって、未読の書類がいずれであるかを特定することが容易ではないという問題点もあった。 10

【 0 0 0 8 】

このため、こうした書類を見る者にとっては、既に読んだメモやメッセージを再び読んでしまう恐れがあった。

【 0 0 0 9 】

なお、本願出願人が実用新案登録出願時に知っている先行技術は、上記において説明したようなものであって文献公知考案に係る考案でないため、記載すべき先行技術情報は無い。

【 考案の開示 】 20

【 考案が解決しようとする課題 】

【 0 0 1 0 】

本考案は、従来の技術の有する上記したような種々の問題点に鑑みてなされたものであり、その目的とするところは、メモやメッセージなどが記載された書類などの各種媒体を、容易に識別可能に保持することができるようにした媒体ホルダーを提供しようとするものである。

【 課題を解決するための手段 】

【 0 0 1 1 】

上記目的を達成するために、本考案による媒体ホルダーは、内部に発光ダイオード（ＬＥＤ）を組み込み、ＬＥＤの点灯／消灯や点滅により保持された媒体の識別を可能にしたものである。 30

【 0 0 1 2 】

即ち、本考案のうち請求項１に記載の考案は、媒体を保持する媒体ホルダーにおいて、内部が空洞状に形成されるとともに上面に開口部が形成された本体部と、上記本体部に配設された媒体保持手段と、上記本体部の上記内部に配置されるとともに発光ダイオードと上記発光ダイオードのオン／オフを制御するスイッチとを搭載したプリント基板と、上記本体部の上記内部に配置されるとともに上記発光ダイオードを点灯するための電力を供給する電池と、上記本体部の上記開口部内に上下方向に摺動自在に嵌合された透明なレンズ状のカバー部材と、上記カバー部材を常時上方向に付勢するバネ部材とを有し、上記バネ部材の付勢力に抗して上記カバー部材が下方向に移動されると、上記カバー部材の下端部と上記スイッチとが当接し、上記カバー部材の上記下端部により上記スイッチをオン／オフし、上記スイッチがオンされると上記発光ダイオードが点滅または点灯し、上記スイッチがオフされると上記発光ダイオードが消灯するようにしたものである。 40

【 0 0 1 3 】

また、本考案のうち請求項２に記載の考案は、本考案のうち請求項１に記載の考案において、上記媒体保持手段は、ピンであるようにしたものである。

【 0 0 1 4 】

また、本考案のうち請求項３に記載の考案は、本考案のうち請求項１に記載の考案において、上記媒体保持手段は、マグネットであるようにしたものである。

【 0 0 1 5 】

また、本考案のうち請求項 4 に記載の考案は、本考案のうち請求項 1 に記載の考案において、上記媒体保持手段は、互いに対向するように付勢された鋸歯状部材であるようにしたものである。

【考案の効果】

【0016】

本考案は、以上説明したように構成されているので、メモやメッセージなどが記載された書類などの各種媒体を、容易に識別可能に保持することができるという優れた効果を奏する。

【考案を実施するための最良の形態】

【0017】

以下、添付の図面を参照しながら本考案による媒体ホルダーの実施の形態の一例を詳細に説明するものとする。

【0018】

なお、以下に説明する各実施の形態において、それぞれ同一または相当するような共通の構成ならびに作用については、第 1 の実施の形態に関して詳細に説明するものとし、他の実施の形態におけるそれらの詳細な説明は適宜に省略するものとする。

【0019】

まず、図 1 および図 2 (a) (b) を参照しながら、本考案の第 1 の実施の形態による媒体ホルダーについて説明する。なお、図 1 は本考案の第 1 の実施の形態による媒体ホルダーの斜視説明図であり、図 2 (a) は図 1 の I I - I I 線による概略断面構成説明図であり、図 2 (b) は図 1 の A 矢印方向から観察した概略透視説明図である。

【0020】

この本考案の第 1 の実施の形態による媒体ホルダー 10 は、画鋏と同様な機能を持つ、所謂、画鋏タイプの媒体ホルダーである。

【0021】

この媒体ホルダー 10 は、内部 12 a が空洞状に形成されるとともに上面に開口部 12 b が形成された本体部 12 と、媒体保持手段として本体部 12 の下部 12 c に固定的に埋設された先端が先鋭に形成されたピン 14 と、本体部 12 の内部 12 a に配置されるとともに発光ダイオード (LED) 16 と発光ダイオード 16 のオン / オフを制御するスイッチ 18 とを搭載したプリント基板 20 と、本体部 12 の内部 12 a に配置されるとともに発光ダイオード 16 を点灯するための電力を供給するボタン型の電池 22 と、本体部 12 の開口部 12 b 内に上下方向に摺動自在に嵌合された透明なレンズ状のカバー部材 24 と、カバー部材 24 を常時上方向に付勢するバネ部材 26 とを有して構成されている。

【0022】

なお、媒体ホルダー 10 においては、バネ部材 26 の付勢力に抗してカバー部材 24 が下方向に移動されると、カバー部材 24 の下端部 24 a とスイッチ 18 とが当接し、カバー部材 24 の下端部 24 a によりスイッチ 18 をオン / オフすることができるよう寸法設定されている。なお、スイッチ 18 は、カバー部材 24 の下端部 24 a とスイッチ 18 とが当接する毎に、オンとオフとを交互に繰り返すものである。

【0023】

そして、スイッチ 18 がオンされると発光ダイオード 16 もオン状態となり、スイッチ 18 がオフされると発光ダイオード 16 もオフ状態となる。

【0024】

この発光ダイオード 16 は、オン状態で点滅し、オフ状態で消灯するように設定されている。

【0025】

以上の構成において、媒体ホルダー 10 を用いて、媒体として書類を壁に保持する場合について説明する。

10

20

30

40

50

【0026】

即ち、媒体ホルダー10のユーザーが、媒体ホルダー10により書類を壁に保持する場合には、画鋏で壁に書類を留める場合と同様に、書類にピン14を突き刺すようにして、ピン14を壁に突き刺せばよい。これにより、書類は媒体ホルダー10により壁に保持されることになる。

【0027】

そして、ユーザーなどが、媒体ホルダー10により壁に保持された書類を他のものと区別させたい場合には、カバー部材24を下方に押し下げてスイッチ18をオンすればよい。このスイッチ18のオンにより発光ダイオード16もオン状態となり、発光ダイオード16が点滅する。

10

【0028】

こうした発光ダイオードの点滅は、カバー部材24を介して外部から視認できるので、壁に保持された書類を読もうとする者は、媒体ホルダー10により壁に保持された書類をその他の書類と容易に識別することができる。

【0029】

また、上記ユーザーや壁に保持された書類を読もうとする者などが、媒体ホルダー10の発光ダイオードの点滅を停止させる場合には、カバー部材24を下方に押し下げてスイッチ18をオフすればよい。このスイッチ18のオフにより発光ダイオード16もオフ状態となり、発光ダイオード16が消灯する。

【0030】

20

次に、図3(a)(b)を参照しながら、本考案の第2の実施の形態による媒体ホルダーについて説明する。なお、図3(a)は概略断面構成説明図であり、図3(b)は図3(a)の上方向から観察した概略透視説明図である。

【0031】

この本考案の第2の実施の形態による媒体ホルダー100は、マグネットと同様な機能を持つ、所謂、マグネットタイプの媒体ホルダーである。

【0032】

この媒体ホルダー100は、内部102aを空洞状に形成された本体部102が、上面に開口部12bが形成された上部本体部102bと、下面に凹所102cが形成された下部本体部102dとにより構成されていて、凹所102cにピン14に代えて媒体保持手段としてマグネット104が配設されている点において、上記した本考案の第1の実施の形態による媒体ホルダー10と異なる。

30

【0033】

こうした媒体ホルダー100を用いて、媒体として書類を冷蔵庫の壁などの金属製の壁面に保持する場合について説明する。

【0034】

例えば、媒体ホルダー100のユーザーが、媒体ホルダー100により書類を冷蔵庫壁に保持する場合には、通常マグネットで冷蔵庫壁に書類を留める場合と同様に、媒体ホルダー100のマグネット104と冷蔵庫壁との間に書類を挟むようにして、媒体ホルダー100のマグネット104と冷蔵庫壁とを吸着させればよい。これにより、書類は媒体ホルダー100により冷蔵庫壁に保持されることになる。

40

【0035】

そして、ユーザーなどが、媒体ホルダー100により冷蔵庫壁に保持された書類を冷蔵庫壁に貼られた他のものと区別させたい場合には、カバー部材24を下方に押し下げてスイッチ18をオンすればよい。このスイッチ18のオンにより発光ダイオード16もオン状態となり、発光ダイオード16が点滅する。

【0036】

こうした発光ダイオードの点滅は、カバー部材24を介して外部から視認できるので、

50

冷蔵庫壁に貼られた書類を読もうとする者は、媒体ホルダー 100 により冷蔵庫壁に保持された書類をその他の書類と容易に識別することができる。

【0037】

また、上記ユーザーや冷蔵庫壁に保持された書類を読もうとする者などが、媒体ホルダー 100 の発光ダイオードの点滅を停止させる場合には、カバー部材 24 を下方に押し下げてスイッチ 18 をオフすればよい。このスイッチ 18 のオフにより発光ダイオード 16 もオフ状態となり、発光ダイオード 16 が消灯する。

【0038】

次に、図 4 (a) (b) を参照しながら、本考案の第 3 の実施の形態による媒体ホルダー 10 について説明する。なお、図 4 (a) は概略断面構成説明図であり、図 4 (b) は図 4 (a) の上方向から観察した概略透視説明図である。

【0039】

この本考案の第 3 の実施の形態による媒体ホルダー 100 は、書類などを挟んで机上に置いておくクリップと同様な機能を持つ、所謂、クリップタイプの媒体ホルダーである。

【0040】

この媒体ホルダー 200 は、内部 202 a を空洞状に形成された本体部 202 が、下方に突出形成された支持部材 202 b と、下面に鋸歯状に形成された把持部 202 c とを有して構成されていて、本体部 202 の下方位置に支持部材 202 b に対して回転自在に支持される支持部材 204 a を形成された基板部材 204 を備えている点において、上記した本考案の第 1 の実施の形態による媒体ホルダー 10 と異なる。 20

【0041】

なお、基板部材 204 の把持部 202 c と対向する部位には、鋸歯状に形成された把持部 204 b が形成されている。

【0042】

また、本体部 202 と基板部材 204 とは、図示しないバネ部材によって、把持部 202 c と把持部 204 b とが噛み合う方向に常に付勢されており、把持部 202 c と把持部 204 b とにより媒体保持手段が構成されている。

【0043】

こうした媒体ホルダー 200 を用いて、机上から書類が飛ばないように当該机上に書類を保持する場合について説明する。

【0044】

即ち、この場合には、把持部 202 c と把持部 204 b とに隙間を設けるように、把持部 202 c と把持部 204 b とが噛み合う方向への付勢力に抗して外部から力を加え、当該隙間に書類を挟んだ後に当該外部の力を取り除けばよい。これにより、書類は媒体ホルダー 200 により保持されることになる。

【0045】

そして、ユーザーなどが、媒体ホルダー 200 により保持された書類を他のものと区別させたい場合には、カバー部材 24 を下方に押し下げてスイッチ 18 をオンすればよい。このスイッチ 18 のオンにより発光ダイオード 16 もオン状態となり、発光ダイオード 16 が点滅する。 40

【0046】

こうした発光ダイオードの点滅は、カバー部材 24 を介して外部から視認できるので、冷蔵庫壁に貼られた書類を読もうとする者は、媒体ホルダー 200 により保持された書類をその他の書類と容易に識別することができる。

【0047】

また、上記ユーザーや媒体ホルダー 200 に保持された書類を読もうとする者などが、媒体ホルダー 200 の発光ダイオードの点滅を停止させる場合には、カバー部材 24 を下方に押し下げてスイッチ 18 をオフすればよい。このスイッチ 18 のオフにより発光ダイ 50

オード１６もオフ状態となり、発光ダイオード１６が消灯する。

【００４８】

従って、上記した媒体ホルダー１０、１００、２００によれば、発光ダイオード１６の点滅により夜間などでもその存在を容易に視認することができるので、例えば、母親が発光ダイオード１６を点滅させた状態でメッセージを記載した紙面を保持した媒体ホルダー１０、１００、２００を冷蔵庫壁などに取り付けておけば、夜間帰宅した子供も重要なメッセージを見落とすことなく読むことができる。

【００４９】

10

なお、上記した各実施の形態においては、発光ダイオード１６はオン状態で点滅するものとしたが、これに限られるものでないことは勿論であり、発光ダイオード１６はオン状態で単に点灯するものとしてもよい。

【産業上の利用可能性】

【００５０】

本考案は、メモやメッセージなどが記載された書類などの媒体を保持する場合に利用することができる。

【図面の簡単な説明】

【００５１】

【図１】図１は、本考案の第１の実施の形態による媒体ホルダーの斜視説明図である。

20

【図２】図２（ａ）は図１のⅠⅠ－ⅠⅠ線による概略断面構成説明図であり、図２（ｂ）は図１のＡ矢印方向から観察した概略透視説明図である。

【図３】図３（ａ）は概略断面構成説明図であり、図３（ｂ）は図３（ａ）の上方向から観察した概略透視説明図である。

【図４】図４（ａ）は概略断面構成説明図であり、図４（ｂ）は図４（ａ）の上方向から観察した概略透視説明図である。

【符号の説明】

【００５２】

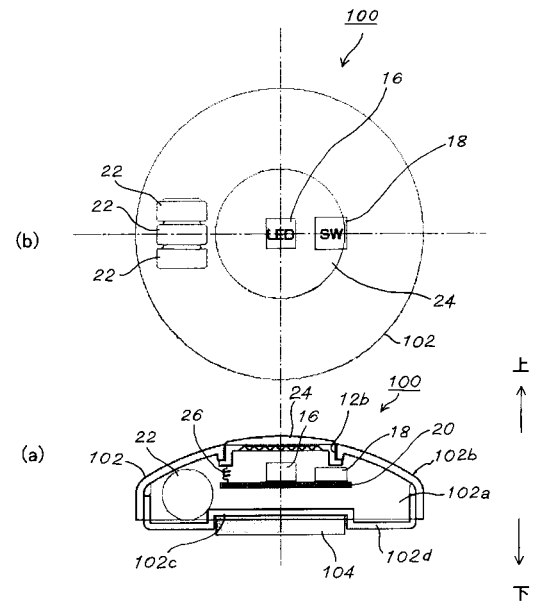
１０、１００、２００	媒体ホルダー
１２、１０２、１０４	本体部
１２ａ、１０２ａ、２０２ａ	内部
１２ｂ	開口部
１２ｃ	下部
１４	ピン
１６	発光ダイオード（ＬＥＤ）
１８	スイッチ
２０	プリント基板
２２	電池
２４	カバー部材
２４ａ	下端部
２６	バネ部材
１０２ｂ	上部本体部
１０２ｃ	凹所
１０２ｄ	下部本体部
１０４	マグネット
２０２ｂ	支持部材
２０２ｃ	把持部
２０４	基板部材
２０４ａ	支持部材
２０４ｂ	把持部

30

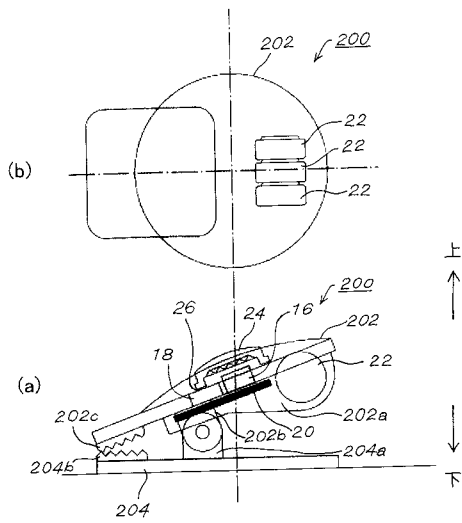
40

50

【 図 3 】



【 図 4 】



【 図 1 】

